



道徳科のスタート

佐渡市教育長 渡邊 尚人

初めまして、5月から佐渡市教育長を拝命しました渡邊尚人でございます。私は高等学校の勤務が長く、小・中学校での勤務経験はありませんが、これから学校現場をよく見て、話を聞きながら、皆さんとともに、胸を張って自慢できる「佐渡の教育」を実現していきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

教育長としての最初の関門である6月市議会も無事終了し、少しずつではありますが、行政の世界にも慣れてきたかなと自分なりに感じています。

さて、今年度の教育委員会の大きな仕事の一つに、来年度に小学校で使用される「道徳」の教科用図書の採択があります。現在、慎重に作業を進めているところです。学校現場でも研修等を重ねその準備を行っているとお聞きしていますが、もう一度、その改訂の理念を理解し、どんな「道徳科」の授業がよいのかを検討していただきたいと思ひます。

私は、今年3月まで勤めた佐渡高校で、問題を起こした生徒の指導に「私たちの道徳」をよく使っていました。仕事の関係からこの本の存在を知り、県教育委員会義務教育課に直接お願ひし、数冊送っていただきました。生徒指導部の職員とともに活用しましたが、その当時から生徒全員にこの本を勉強させたら、職員の意識も高まり、もっと生徒が良くなるのになと思ひていました。



今回の学習指導要領改正では、一つに、「いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする。」二つ目に、「問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図る。」にポイントが置かれています。

教科書を一通り教えるばかりでなく、学校現場の現状に合わせ、工夫し、学校全体で共通意識を持ちながら、児童生徒の一人一人の成長を促す、心に響く道徳指導を願って止みません。

新たな取組を小中連携で

下越教育事務所 指導主事 森 和人

今年度から、県が主体となって進める学力向上の取組が変更しました。佐渡市では、次の2本柱の取組を中心に進めています。

1 数学学力向上専門監事業の取組

この事業は数学指導に卓越した教諭を専門監として配置し、市内全中学校に対して直接的、継続的に指導・支援に当たるものです。まだ僅か4か月の実施ですが、各校の先生方の有効な手立てが共有されたり、生徒のつまずきの要因を考察し合ったり、指導力向上につながる取組が盛んに実施されています。

協議の中で、小中の指導連携について話題になりました。それは、「中学校に関する内容が、小学校でも教えられていること」「小学校でのつまずきを認知しないまま中学校で指導していたこと」等が分かったからです。数学担当者は、小学校の問題分析や定着度の把握等について研修を始めました。

小学校の先生方からは、同中学校区で数学担当者の研修が実施される場合、積極的な参加をお願ひします。小中が連携して数学の学力向上につながる必要があります。

2 中学校区訪問の変更と1中学校区1取組

中学校区訪問は1学期の1回となりました。2学期以降の取組については、10月に進捗状況を、3月に年度末の成果と課題を紙面で報告してもらいます。全校体制で1学期の実践について評価し、年度途中でも積極的な改善を進めてほしいと思ひます。要請があれば、訪問させていただきます。その場合はご連絡ください。

さて、訪問の中で、新たな取組である言語活動の充実に向けた「1中学校区1取組」について確認させていただきました。言語活動の充実は新学習指導要領でも重要視されています。小学校の学びが発展的に中学校へ接続されることを願ひます。



キャリア教育のさらなる充実へ

教育指導主事 本間 辰彦

佐渡市教育委員会は、平成27年度末までに郷土愛を軸としたキャリア教育グランドデザインを策定し、各学校で実施しています。佐渡の未来を担う人三つの姿の実現に向け諸活動に努めています。

小学校では、6年生で「みらい'Sノート」の活用を通し、自らと佐渡の未来を意識しつつ成長しています。中学校では、二つのモデル校での課題解決型職場体験の成果を全中学校で共有しました。高等学校との繋がり、SCN(佐渡キャリア教育ネットワーク)が中心となって、生徒が主体的に企画運営する「しゃべり場」の実現に結実しました。

以上の施策を継続しつつ、今年度は次の二つを充実させます。

一つ目は、課題解決型職場体験受け入れ事業所と参加中学校の拡大です。佐渡市においては、5日間の職場体験の実施は困難な状況にあります。短期間でも成果の出る現在の方策を続けます。

二つ目は、関係各課との連携です。事業所拡大については地域振興課の助けを借ります。保育園・幼稚園については、子ども若者課からの支援に頼ります。

佐渡の子どもたちは、12～14年間を学校で学んだ後、佐渡を離れます。出て行くまでに「郷土愛」を育み「佐渡が大好き」な子どもの育成に努めます。

※ SCN; 佐渡キャリア教育ネットワークの略称。企業や行政、NPOや地域おこし協力隊、教職員などからキャリア教育に関心のある人が集まり組織している任意の団体。平成27年度創立。

キャリア教育イメージキャラクター

「かんガエル」

サドガエルの男の子。佐渡の田んぼで生まれました。



不登校発生の未然防止の推進

教育指導主事 原 功治

不登校傾向にある児童生徒への対応に各学校で努力していることが、各種調査結果から分かります。それらの取組にもかかわらず、昨年度末調査では、年間30日以上欠席した児童生徒数が前年度より増加しました。ここ数年減少傾向にあった不登校率も再び上昇しました。増加の要因は、「単年度で解消することができず、複数年にわたり年間30日以上欠席が継続している児童生徒が増加したこと」、「昨年度新規に該当した児童生徒が増加したこと」にあります。

不登校傾向が長期間続くと、学校復帰には、当事者である児童生徒は不安感・焦燥感等のストレスを抱えます。保護者や学級担任にも大きな負担がかかります。

このような事態を避けるためには、児童生徒にとって、魅力ある学校生活を実現することが重要です。また、一人一人に自己有用感をもたせること、本人にとって心地よい居場所をもたせることも必要です。不適応は誰にでも起こり得ます。そのときは、早期対応が肝心です。

早期発見・対応を確かなものにするには、平時から児童生徒の心の変化を把握することを勧めます。気になる様子や変化が見られたときには、複数の職員が協力し観察を強化しながら、必要に応じ声掛けし、相談に応じたり、共感的に改善策を考えていく姿勢が必要です。

学力の保障、生徒指導上の配慮をした各種取組で不登校・不適応への対応をお願いします。



サービスの心 「頼れる理セン」

教育指導主事 大山 誠

理科センターの業務に質問や相談への対応があります。学校からは「メダカがたまごを産みません。」「モンシロチョウのたまごが手に入りません。」などが目立ちました。所員が一つ一つ確認し、丁寧に応えています。一般の方からの質問・相談も増えています。学年PTA科学教室の打合せに訪れた役員の方が展示物や教材に目を止め、「これはどんなときに使うんですか?」といった質問にお応えしたことで、後日「この生き物は何か分かりますか?」とデータ持参で訪れるなどです。長年の理セン職員の「サービスの心」での対応が「頼れる理セン」に結びついているのです。今年最大の話題の紹介です。「嵐でツバメの巣が落ちた。どうしよう…生きていたヒナを助けたい!」一刻も早い対応が…。数時間後、お礼の写メが届きました。「ありがとうございます。親鳥が戻ってきました。」

